

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602074		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 野中つつじ苑 (2階)		
所在地	〒839-0862 福岡県久留米市野中町771番地1	Tel. 0942-39-2700	
自己評価作成日	令和04年09月15日	評価結果確定日	令和04年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は平静な住宅街の一画にあります。近辺には公園や文化施設、お店があり、散歩や買い物の環境に恵まれています。現在はコロナの影響で回数が減っていますが、天気の良い日は公園や文化施設へ出掛けて四季折々の変化を楽しんで頂いています。また、年に数回遠出や外食を企画して出掛けています。
 苑では、ご利用者の今までの生活を大事にして、出来るだけ本人のペースで過ごせるようにこころがけています。それによって安心し、ストレスの少ない毎日を送って頂きたいと思っています。また、ご家族との会話の時間をできるだけ持つようになっています。ご利用者とご家族にできるだけ寄り添っていけたらと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年10月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフがいつでも見られるように理念を詰所に掲示しており申し送りの時に唱和して業務についています。毎年の自己評価において、理念に基づいた評価項目を設定しており職員一人一人を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時など近隣の方と挨拶や会話をしており、利用者様やスタッフに近親感をもって頂けるように心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて事業所の状況や活動報告を行いながら、支援についての意見交換をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ蔓延のため書面開催を行っており、利用者様の状況・行事・困難事例等を書面で報告しています。その際いただいた意見を職員と共有してサービスを向上につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で報告し助言をいただいております。また、事故報告書に対する市役所からの問い合わせの時に相談させていただくこともあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修を通じて身体拘束について学んでいます。身体拘束が必要と思われる時は、ご家族の協力を得て代替策を検討・実行できるように努めています。玄関の施錠に関しては防犯のために行っていることをあらかじめ入苑時に利用者及び家族に許諾をいただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは苑内、外部研修に参加をして知識を深めています。また、特変事項等はカンファレンスで話し合い職員同士で共通認識を持つように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する苑内研修を行っています。過去に利用者様の中に、成年後見制度を利用されている方がおられ、スタッフが成年後見制度に関わり経験を蓄積しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書類に添って説明を行っています。疑問や不安に対して説明・確認しながら行い、理解を得た上でサインを頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に電話・SNSや面会などを利用して、意見要望を聞く様にしており、できるだけ気兼ねなく話せるような関係性を築けるように心掛けています。ご意見やご要望は職員間で共有し話し合っています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に代表者や管理者に意見を発言する機会を設けています。また、随時、業務中でも職員の意見を聞けるよう環境を整えるよう心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年各自が自己評価を行い、それに対して代表者が評価とアドバイスをしています。外部研修の参加を推進しており、勤務時間を利用できるように配慮しています。また、事業所全体の研修は、職員が無理のないスケジュールで受けることができるように配慮しています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人に関し性別や年齢等の基準は設けていません。職員に関しては、本人の思いや希望に添える様子調整を行ったり、個別面談を通し個々の特性や能力を把握し生かせるよう努めています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市発行のパンフレットをもとに勉強会を行ったり、随時人権に関する研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるように個人の休みを利用するのではなく、勤務時間を利用し参加できるようにしています。また、事業所全体の研修はアプリを使い職員個人が無理のないスケジュールで行えるよう配慮しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護事業者協議会に加入しており、勉強会や交流会に参加しています。他にも医師会や社協の勉強会に参加し交流を深めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面会の機会を設けて要望や不安に思っていることを聞いています。入居後も会話の中で本人の思いを聞く様になっています。そして、職員間で情報を共有し解決に向けた取り組みをしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や申込みの際にお話を伺い、不安や疑問等に説明を行っています。又入居時にもお話を伺い要望にお応えできるようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人とご家族の希望をお聞きして、それに基づいたサービスを提供しています。必要であれば他のサービスを説明しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や洗濯物の準備や後片付けなど積極的に参加していただき、施設での生活を一緒に行っていると思えるように心掛けています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会がなかなかできませんが、可能な限り面会していただいています。また、電話やSNSなどでご利用者の状況やご要望を伝え、ご家族のお聞きしており、職員間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にご家族や古い写真を飾っています。ご友人が訪ねてみえる時は、再度訪問し易い雰囲気作りにはしています。家族との外出も積極的に支援しています。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や対人関係等を把握して配席を考慮しています。また、ご利用者のコミュニケーションがスムーズになるように職員が支援しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族からお電話をいただいたり、訪ねて来られる時もあります。契約終了後も関係を大切にしており、相談や支援ができる様にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で声をかけながら、その方の把握に努めています。言葉や表情などからも思いを確認するようにしています。また、家族からの情報も参考にしています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はインテーク・情報提供等を通じて、今迄の生活を把握するようしており、それを個別支援に繋げるように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録をもとに申し送り等で一人一人の情報の整理・共有に努めています。また、毎日の過ごし方を本人やご家族にお尋ねし、その方らしい過ごし方を考慮しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・家族・関係者より情報収集を行い、その方の課題を導き出しています。それをもとにカンファレンスで話し合いってから、計画を作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、日常の変化を把握しています。それによって本人の希望、得意・不得意、好きなこと・嫌なことを見つけて介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生じたニーズを職員間で話し合う際に、柔軟なアイデアが出るように心がけており、旧弊に囚われないようにサービスの多機能化に取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との挨拶はもちろんのこと、コロナ禍で中止となっていますが、地域の行事にも参加して楽しんで頂いておりました。防災訓練等にも参加をお願いしています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の希望に応じた、かかりつけ医を決めていただいております。受診同行・往診時にかかりつけ医と積極的に情報交換を行って関係を築く心がけており、急変時などにはかかりつけ医に連絡して指示を仰ぎながら対処しており、ご家族にも報告して連携をとるようにしています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報・気づきを苑内の看護師に報告し、それを看護師がかかりつけ医の看護師に報告相談することで、適切な治療が受けられるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を用いて情報を提供しています。入院中は地域連携室と連絡を取り合いながら状況の把握や相談を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明を行い意向を伺っています。また、本人・ご家族等の意向の変更には随時お受けし、柔軟に対応しています。終末期にはご家族と医療機関と連携をとりながらご本人の意向に添うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に苑内研修を実施し、苑内の看護師によるマニュアルとパンフレットを基に学んでいます。また、実際にOJTを行い実践しながら学べる環境を作るよう心掛けています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災研修を行い、非常時の対応について学んでいます。 作成したマニュアルに従って、年2回避難誘導訓練を行っています。また、地域の方や消防にも協力をお願いしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で人権の尊重と、プライバシー保護について学んでいます。その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応するようにしています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を聞く様に心がけており、ご利用者が自己決定のために、助言等の支援を行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の習慣や体調に合わせて起床就寝時間を決めていきます。生活習慣とその日の状態や気分を考慮して、利用者様一人一人に合った過ごし方ができる様に支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服をご利用者に選んでもうようにする等、ご利用者の趣味・趣向に添うように支援しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、食事の準備・後片付けを職員と一緒にやってもらっています。また、ご利用者の入苑前の特技が活かせるようお茶会などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態で提供していません。必要な栄養や水分が確保できる様に好きな物を用意したり、栄養補助食品を利用しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケア介助を行っています。毎週水曜日に歯科往診があり、口腔内の状態を診てもらっています。そして、一人一人に合ったお手入れの方法を助言して頂いています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握しています。訴えがない方は個々に合わせてトイレ誘導をしています。各自のトイレのサインを見逃さないように心掛けています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に応じて個別にヨーグルトを食べていただいたりしております。水分を多く摂取するように適宜お声掛けを行っております。毎朝ラジオ体操やリズム体操を行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールは決まっていますが、体調や気分に応じて入浴の日にちや時間を変更する等、柔軟に対応するようにしています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた起床や就寝を支援しています。毎日の生活パターンやその日の体調に合わせて居室で休んだり、フロアのソファでくつろいでもらったりしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報提供書を個人ファイルに閉じていて、スタッフはいつでも参照できるようにしています。変更があった時は情報共有し、症状の変化や異常の早期発見に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食後のお盆拭き等、利用者様其々に合った役割を持って頂いています。嗜好品を常備して、欲しい時に食べている方もいます。散歩、ドライブ、テレビ視聴等思い思いに過ごして頂いています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会も減ってきましたが、屋外の気候が穏やかな時には、特に散歩などの支援を行っています。 普段の日も希望があったり、スタッフから誘ってドライブ、買い物支援を行っています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されれば、ご家族から了解を得てお金を所持されています。また、受信時等にご自身でお支払いをしていただいております。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響でなかなか面会が出来ない状況ですが、いつでもビデオ通話で会話ができるように体制を整えています。携帯電話をお持ちのご利用者にはいつでも電話連絡をしていただいております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけを季節ごとに取替え、季節感が出るようにしています。空調の管理、加湿器や空気清浄機を設置することで快適に過ごしていただけるようにしています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気兼ねなく過ごせるように配席を考えています。また、状況に応じて席替えを行うようにしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等は使い慣れた物をお持ち出来ます。室内のレイアウトはご利用者とご家族と相談しています。利用者様が不便を感じないで済むように危険物以外は特に制限を設けていません。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内には随所に手すりを設置しており、安全に移動できるようにしています。居室入り口やトイレ浴室などには案内を表示しています。危険箇所には緩衝材を取り付けて危険防止に努めています。		